

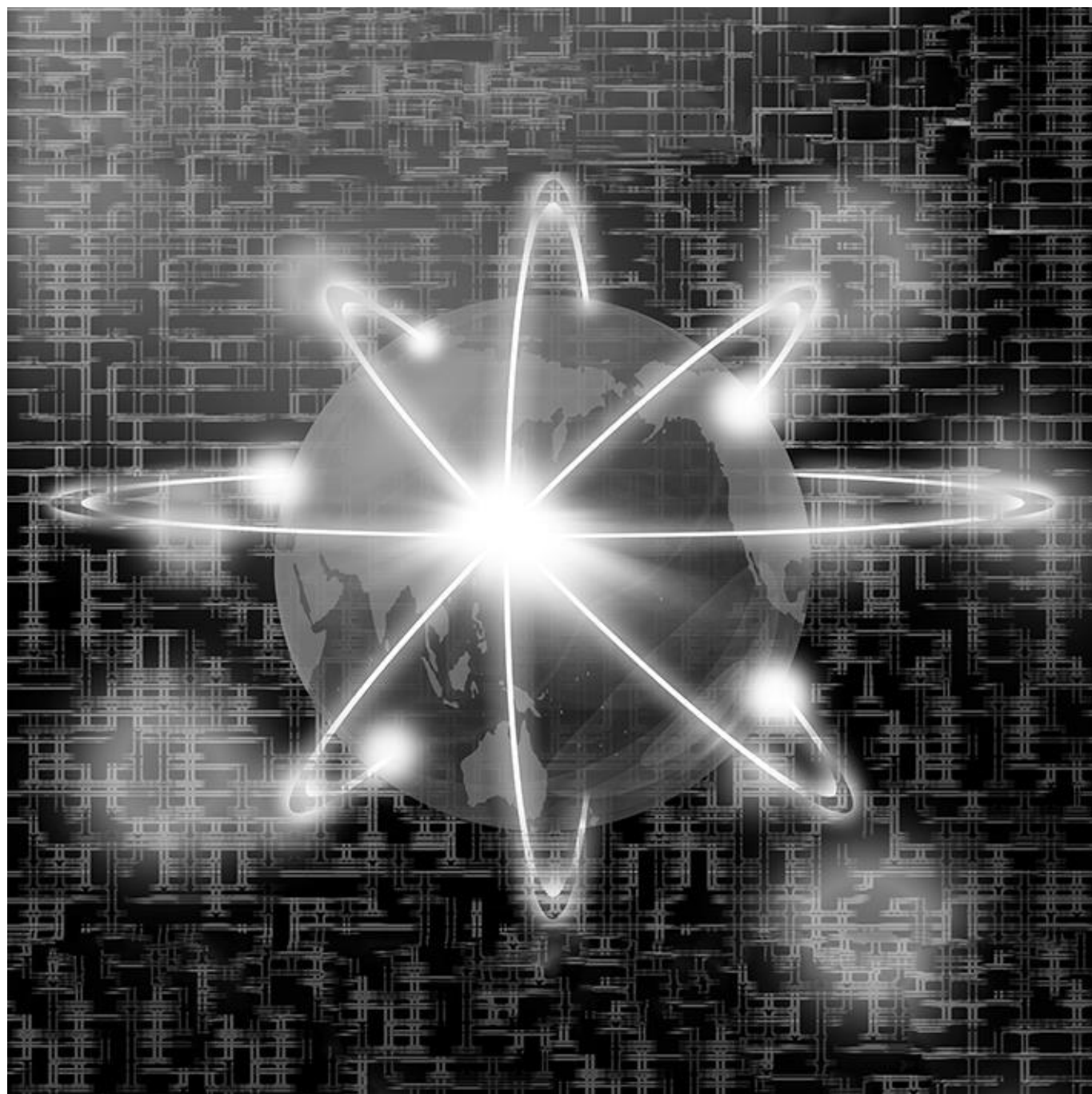
saxa

取扱説明書

スマートフォン連携：MLiner 編

ビジネスコミュニケーションシステム

PLATIA II



このたびは、「PLATIA II」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり正しくお使いください。
※本書では、PLATIA IIを「主装置」と記載しています。

参考文献

本書をお読みになる場合には、お手元に以下の文書も合わせてご準備ください。

- ・取扱説明書（スマートフォンリモコン編）
- ・取扱説明書（Web 設定編）

ご注意

- 本製品は、電話番号に代表される、個人情報の保存または保持可能な商品です。設置工事、保守、廃棄、譲渡および返却される際は、本製品内に保存または保持された個人情報を消去する必要があります。
- ご使用の際は、本書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品は、日本国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
This equipment is designed for in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本製品を分解したり改造することは、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。
- 本製品を設置するための配線工事および修理は、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は違法となり、また事故の元になりますので、絶対におやめください。
- 本書の内容につきましては、万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、販売店にお申しつけください。
- 本書の内容、外観については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容の一部または全部を無断転載、無断複写することは禁止されています。
- iOS は、Cisco の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- App Store は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
- Android、Google Play は、Google Inc. の商標または登録商標です。
- iPhone は、アイホン株式会社の登録商標です。
- Galaxy は、Samsung Electronics Co, Ltd. の登録商標です。
- Xperia は、ソニーモバイルコミュニケーションズ株式会社の商標または登録商標です。
- docomo は、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。
- SoftBank は、日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
- au は、KDDI 株式会社の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名・ロゴ・製品名・ソフトウェア名は、各会社の商標または登録商標です。

免責事項

- 地震および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本装置の使用または使用不能から生じる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断、通信機会の喪失など）に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 電話サービスを利用することによる金銭上の損害、および逸失利益について第三者からのいかなる請求についても当社はその責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

安全にお使いいただくために

必ずお読みください

本書には、あなたやほかの人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の説明

表示	説明
 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷（※1）を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷（※1）を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害（※2）を負う可能性が想定される内容および物的損害（※3）のみの発生が想定される内容を示しています。

※1： 重傷とは失明・けが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで後遺症が残るもの、治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

※2： 傷害とは治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。

※3： 物的損害とは家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

図記号の説明

表示	説明
 禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。 この記号のついた警告・注意文が指定する行為は絶対に行わないでください。
 強制	強制（必ずすること）を示します。 この記号のついた警告・注意文が指定する行為は必ず実施してください。

 危険	
 強制	電池パックはプラス⊕・マイナス⊖の向きが決められています。コードレス電話機に接続するときは、プラス⊕、マイナス⊖の向きを確かめてください 電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。
 禁止	電池パックを単体では充電しないでください 電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。
 禁止	電池パックは、指定の電話機以外には使用しないでください 電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。
 禁止  分解禁止	電池パックを分解・改造しないでください 電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。
 強制	電池パックを使用する場合は、以下のことを必ず守ってください 電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。 ・火の中に投入したり、加熱しない ・直接はんだ付けしない ・プラス⊕・マイナス⊖を針金などの金属類で接触させない ・水・雨水・海水・薬品などにつけたり、ぬらさない ・ネックレスなどの金属製品と一緒に持ち運んだり、保管しない ・針を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたり、投げつけない
 強制	電池パック内部の液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。こすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください
 強制	不要になったリチウムイオン電池を廃棄するときは、ショート防止のために、電極に絶縁テープを貼り、地方自治体の条例や規則に従うようにしてください 電極がショートすると、破裂、発火の原因となります。

 警告	
 禁止	取付位置を変更しないでください 火災・感電・けがの原因となります。 配線工事を行うには資格が必要です。販売店にご相談ください。
 禁止  電源プラグを抜く	主装置の通風孔や電話機の開口部などから、金属類を入れないでください 火災・感電・故障の原因となります。万一、金属類が内部に入ったときは、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店にご連絡ください。
 禁止  ぬれ手  禁止	主装置をぬれた手で操作したり、ぬれた布でふかないでください 感電の原因となります。
 禁止  電源プラグを抜く	万一、内部に水などが入った場合、そのまま使用しないでください すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
 禁止  電源プラグを抜く	主装置、電話機の上や近くに液体の入った容器（花びん・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・小さな金属など）を置かないでください 液体がこぼれて内部に入ると、火災・感電・故障の原因となります。万一、液体が内部に入ったときは、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店にご連絡ください。
 禁止  接触禁止	雷が鳴り出したら、主装置・電源コード・LAN ケーブル・USB メモリなどに触れないでください 感電の原因となります。
 禁止  電源プラグを抜く	万一、煙が出ている、異常音がする、変なにおいがするなどの異常状態が発生した場合、そのまま使用しないでください すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。なお、お客様による修理は危険ですからおやめください。
 禁止	一般のごみとして放置しないでください 火災・けがの原因となります。 廃棄するときは、販売店にご相談ください。
 禁止	AC100V±10V の商用電源以外は、絶対に使用しないでください 火災・感電・故障の原因となります。
 禁止	内線・外線の各端子をショートさせないでください 火災・故障の原因となります。
 強制	電源プラグを電源コンセントへ直接接続してください 延長コードは過熱・発火の危険があるので使わないでください。
 禁止	テーブルタップや分岐コンセント・分岐ソケットを使用したタコ足配線はしないでください 火災・過熱の原因となります。

 警告	
 禁止  電源プラグを抜く	主装置、電話機を傾いた台の上や、振動、衝撃の多いところに置かないでください 落下・転倒により、けがの原因となります。万一、落下・転倒により破損したときは、主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。
 禁止  ぬれ手禁止	ぬれた手で電源プラグ、LAN ケーブル、USB メモリを抜き差ししないでください 感電・けがの原因となります。
 禁止  火気禁止	主装置、電話機に火の気を近づけたり、加熱しないでください 鉛蓄電池（バッテリー）が液もれ・発熱・破裂し、火災・けがの原因となります。
 禁止  電源プラグを抜く	電源コード、電話機コード、LAN ケーブル、USB メモリを傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、高温部に近づけたり、重い物を載せたり、挟み込んだり、加工しないでください コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだ場合は（芯線の露出、断線など）主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店に交換をご依頼ください。
 禁止	工事者以外は、装置の蓋などを開けないでください 感電、故障の原因となります。
 強制	電源プラグは電源コンセントの奥までしっかり差し込んでください 電源プラグの刃に、金属などが触れると火災・感電・故障の原因となります。
 強制	電源プラグの刃および刃の取付面に、ほこりが付着している場合は、よくふいてください 火災の原因となります。
 電源プラグを抜く  強制	主装置に鉛蓄電池（バッテリー）を使用する場合、寿命は（使用頻度にもよりますが）設置後 2～3 年（長寿命バッテリーの場合は 6 年）です。交換時期になりましたら、販売店にまとめて交換をご依頼ください 寿命が過ぎた鉛蓄電池（バッテリー）を使用し続けるとバッテリー内部の液もれの原因となります。万一、バッテリー内部からもれた液が皮膚や衣服についたときは、すぐきれいな水で洗い流してください。皮膚がかぶれることがあります。また、バッテリー内部の液もれが発生したときは、主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
 禁止	機器で指定されていないバッテリーは使用しないでください。また、新しいバッテリーと古いバッテリーと混ぜての使用はしないでください 電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。
 禁止  分解禁止	分解・改造・修理しないでください 火災・感電・故障の原因となります。 電話機の改造は法令違反になります。故障のときは、販売店に修理をご依頼ください。

 警告	
 電源プラグを抜く  強制	万一異物が、本装置および電話機の内部に入った場合は、まず本装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。特に小さなお子様のいる家庭ではご注意ください。
 強制	主装置の内部の点検・修理は、販売店に依頼してください
 禁止	歩行中に電話機を操作したり見たりしないでください 転倒・交通事故などの原因となります。
 禁止	電話機を電子レンジや高圧容器に入れたりしないでください 火災・故障の原因となります。
 禁止	引火性ガスが発生する場所では、電話機を絶対に充電しないでください 火災の原因となります。
 禁止  電源プラグを抜く	万一、充電器が落下したり、破損した場合は、そのまま使用しないでください 必ず AC アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い求めの販売店に至急ご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
 禁止	本装置を医療用電気機器（ペースメーカーなど）の近くで使用しないでください 電波により医療用電気機器に影響を与えることがあります。
 禁止	高精度な制御や、微弱な信号を取り扱う電子機器の近くで使用しないでください 電子機器が誤動作するなど影響が出る可能性があります。また、使用を制限された場所での使用はお控えください。 （ご注意いただきたい電子機器の例：補聴器・医療用電子機器・ペースメーカー・火災報知機・自動ドア・自動制御機器など）
 禁止	充電器の開口部から金属類を入れないでください 万一、内部に異物が入った場合は、すぐに AC アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い求めの販売店に至急ご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
 禁止	充電端子を金属でショートさせないでください 火災・故障の原因となります。
 禁止	充電端子に水滴のついたまま充電しないでください 火災・故障の原因となります。
 強制	電池パックが液もれしたり、異臭がするときは、すぐに火気から遠ざけてください
 強制	所定の充電時間を越えても充電が完了しない場合には、すぐに充電をやめて、お買い求めの販売店にご連絡ください
 禁止  ぬれ手禁止	ぬれた手で電池パックを交換したり、ぬれた手で充電器の AC アダプタを抜き差ししないでください 感電の原因となります。
 禁止	付属の AC アダプタ、充電器以外を使用しないでください 火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。

⚠ 警告

 強制	AC アダプタ、充電器は指定の電源コンセントに接続してください それ以外の電源コンセントに接続すると火災・感電・故障の原因となります。
 強制	電池パック内部の液が皮膚や衣服に付着した場合には、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください
 禁止	LAN ポートや PC ポートに接続したネットワークケーブルを電源コンセント、アナログ電話回線、デジタル電話回線（ISDN）、PBX デジタル電話回線には接続しないでください 火災・感電・故障の原因となります。
 強制	LAN ケーブルのモジュラープラグおよび USB メモリのコネクタは、ほこりが付着していないことを確認してからモジュラージャックまたは USB ポートに差し込んでください。また、モジュラープラグやコネクタにほこりが付着している場合は、よくふいてください ほこりにより火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

 強制	必ずアースを接続してください アース接続をしないで使用すると感電・故障の原因となることがあります。
 強制	主装置や電話機を壁掛けに変更するときは、販売店にご相談ください 配線工事を行うには資格が必要です。また、主装置や電話機の重みに耐える専用壁掛け金具を使用して適正な取り付けが必要です。
 禁止	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください 電源コードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。
 禁止	振動・衝撃の多い場所に置かないでください 火災・感電・故障の原因となります。また落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
 禁止	主装置や電話機を上下逆さまの状態を設置しないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。
 禁止	主装置、電話機の上に乗ったり、座ったりしないでください けがや故障の原因となることがあります。
 禁止	直射日光の当たるところや、暖房設備・ボイラーなどのため著しく温度が上昇するところに置かないでください 内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
 禁止	湿気やほこりの多い場所、潮風、腐食性ガスのかかる場所、化学反応を起こすような場所（化学実験室など）には置かないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。
 禁止	風呂場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。
 禁止	調理台のそばなど油煙や湯気が当たるような場所、ほこりが多い場所に置かないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。

 注意	
 禁止	電源コード・電話機コード・LAN ケーブルを熱器具に近づけないでください コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
 禁止	落下させるほどの強い衝撃を与えないでください
 強制	移動させる場合は、電源プラグを電源コンセントから抜き、回線コードや電話機コードなど外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
 禁止	主装置や電話機の開口部をふさがないでください 開口部をふさぐと、内部の熱が上昇し、火災の原因となることがあります。
 禁止	電気雑音を発生するものに近い場所に置かないでください 通話に雑音が入ったり、使用できなくなることがあります。 <電気雑音の原因としては> ・車やオートバイが近くを通る場合 ・放送局や無線局（アマチュア無線、CB 無線など）の近くで使用する場合 ・テレビ・ラジオ・蛍光灯・OA 機器・電子レンジ・電気コタツなどの近くで使用する場合 ・高周波溶接機・高周波ミシン・電気溶接機・ワイヤカッタなどの工作機械の近くで使用する場合
 禁止	強い磁界の発生源の近くに設置しないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。
 禁止	火のそばや炎天下などの高温の場所で、充電はしないでください 高温になると危険を防止する保護装置が働き、充電できなくなったり、保護装置が壊れる原因となります。
 強制	電池パックは、事故防止のため、小さいお子様の手の届かないところに保管してください 誤飲、感電の原因となります。
 強制	長時間ご使用にならないときは、安全のため必ず充電器の AC アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜いてください 発火・故障の原因となります。 主装置については、常時電源を「ON」の状態にしておいても問題ありません。
 強制	AC アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜くときは、必ず AC アダプタまたは電源プラグを持って抜いてください 電源コードを引っ張ると、電源コードが傷つき、火災・感電・断線の原因となることがあります。
 禁止	コードレス電話機のアンテナを持って持ち運んだり、アンテナを無理に曲げたり引っ張ったりしないでください 故障の原因となります。
 注意	電話機等の底面には、ゴム製のスベリ止めを使用しています。ゴムとの接触面がまれに変色することがあります
 注意	コードレス電話機のアンテナを誤って目にささないようにしてください
 注意	アンテナなどの突起物を目や口などに入れないようにしてください。特に小さなお子様のいる家庭ではご注意ください

 注意

 強制	充電器をお手入れする際は、安全のため、あらかじめ AC アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜いてください 感電の原因となることがあります。
 禁止	充電器の上に指輪、ネックレスなどの金属類を置かないでください 金属が熱くなり、火災・やけどなどの原因となることがあります。
 強制	充電は周囲温度 5℃～35℃の範囲で行ってください 正常な充電ができなかったり、故障の原因となります。
 強制	お手入れの際は安全のために、本装置の電源スイッチを切ってから電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください
 強制	水滴がついた場合は、乾いた布でふき取ってください 本装置および電話機の内部に水滴が入ると、火災・故障の原因となることがあります。
 禁止	表面が熱に弱い家具の上などの表面が熱に弱い場所には、本装置および電話機を置かないでください 家具等の表面が変色・変形する場合があります。
 禁止	本装置および電話機の上に手をついたり、ものを載せないでください 火災や故障の原因となります。
 禁止	ぬれた雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールおよびシリコン系クリーナーなどでふかないでください 本装置の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは水で薄めた中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、柔らかい布でからぶきしてください。
 禁止	受話器用カールコードやモジュラープラグで差し込まれている電話機コードを強く引っ張らないでください 故障の原因となることがあります。

IP 回線の特性について

- 下記のような場合には、IP 電話サービスの通話品質が劣化したり、通信が切断される場合があります。
 - ・ WAN（ブロードバンド）回線の接続状態によって十分な帯域がとれない場合
 - ・ インターネット上で十分な帯域がとれない場合
 - ・ 主装置に接続しているパソコンで、ファイル転送やストリーミングサービスのような大きな帯域を必要とするサービスを使用中の場合
- 相手の方からの音声品質がよい場合でも、こちらから相手への音声品質が劣化していることがあります。
 - ・ ADSL 回線をご利用の場合は、下りの伝送速度よりも上りの伝送速度のほうが低いため、通話中にインターネット上のサーバへ大きなファイルを送信したり、他拠点との間でファイルを転送することは避けてください。また、LAN 内に、インターネットにアクセスできる Web サーバ、FTP サーバなどを設置しないでください。

SIP 電話機および IP 多機能電話機の特性について

- 下記のような場合には、IP 電話サービスの通話品質が劣化したり、通信が切断される場合があります。
 - ・ LAN の接続状態によって、十分な帯域がとれない場合
 - ・ LAN に接続しているパソコンで、ファイル転送やストリーミングサービスのような大きな帯域を必要とするサービスを使用中の場合
- 相手の方からの音声品質がよい場合でも、こちらから相手への音声品質が劣化していることがあります。

取扱上のお願い/主装置、電話機、他

停電などの外的要因、あるいは本装置の故障、誤動作、不具合によって通信などの機会を逸したために生じた逸失利益等の金銭的損害につきましては、当社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください

本装置を人命や、危害に直接的または、間接的に高い安全性が必要とされる環境下では使用しないでください

本装置に登録された内容は故障・修理のときに消失する場合があります

テレビ、ラジオ、無線機、電子レンジ、インバータ形蛍光灯などの磁気、電波を発生する場所や違法無線を受ける場所に設置した場合、ノイズや誤動作を引き起こすことがあります

放送局の近くや違法 CB 無線など、強い電波を受ける場所では通話中に雑音が入ることがあります。通話に支障をきたす場合には、販売店にご相談ください

別売品の停電用電源を接続している場合は、電源スイッチが「ON」のままで、電源プラグを抜いたり、配電盤などの電源を切らないでください

バッテリーが放電してしまい、停電時に動作しなくなります。また、バッテリーの寿命を縮める原因となります。

コードレス電話機を設置するときは、親機から約 3m 以上離してください

親機にあまり近い場合は、コードレス電話機が正常に動作しないことがあります。

デジタルコードレス電話機（DC）の側面に取り付けられたゴムキャップを取り外さないでください
ゴムキャップがないまま、ぬれた手で使用すると、故障や感電の原因となります。

コードレス電話機は、防水対応ではありません

寒い戸外から急に暖かい室内にコードレス電話機を持ち込むと、急激な温度変化により、コードレス電話機内部に水滴（結露）がつくことがあります。結露が生じたときは電源を切って、水滴が蒸発するまでしばらく放置しておいてください

結露したままで使用すると、故障の原因となります。

コードレス電話機の通話は盗聴されにくくなっていますが、電波を利用しているため、通常の手段を超えた方法で第三者が故意に通話の内容を傍受する場合があります。この点を十分に留意して使用してください

目次

安全にお使いいただくために	i
目次	xi
はじめに.....	1
MLiner とは.....	1
動作環境	4
画面構成.....	5
基本画面について.....	5
マルチライン画面について	7
電話をかける	9
ダイヤル操作で発信する	9
電話帳から発信する.....	10
電話帳の更新	11
電話帳のインポート	11
履歴から発信する.....	12
電話を受ける	13
スマートフォンの電話で応答する.....	13
MLiner で応答する	14
電話を終了する	15
通話を保留する	16
保留する	16
保留に応答する	17
通話を転送する	18
ダイヤル操作で転送する	18
電話帳から転送する.....	19
ログイン/ログアウト.....	20
ログインする	20
ログアウトする	21
便利な機能.....	22
オートダイヤルの機能を利用する.....	22
お気に入り機能を利用する	23
お気に入り番号を登録する.....	23
お気に入り番号へ発信する.....	24
お気に入り番号を編集する.....	25
お気に入り番号を削除する.....	25
電話をスマートフォンから直接かける	26
発信ルールを設定する	26
電話をスマートフォンから直接かける	26
おやすみ機能を利用する	27
アプリケーションロック機能を利用する	28

アプリケーションロックを設定する	28
アプリケーションロック中に解除する	29
スマートフォンリモコン機能を利用する	30
こんなときは	31
お問い合わせの前に	31
設定を初期化する	32
第三者の利用を制限する（強制ログアウト）	33
付録	34
オートダイヤル機能一覧	34
特番一覧	34
お問い合わせ窓口のご案内	35

はじめに

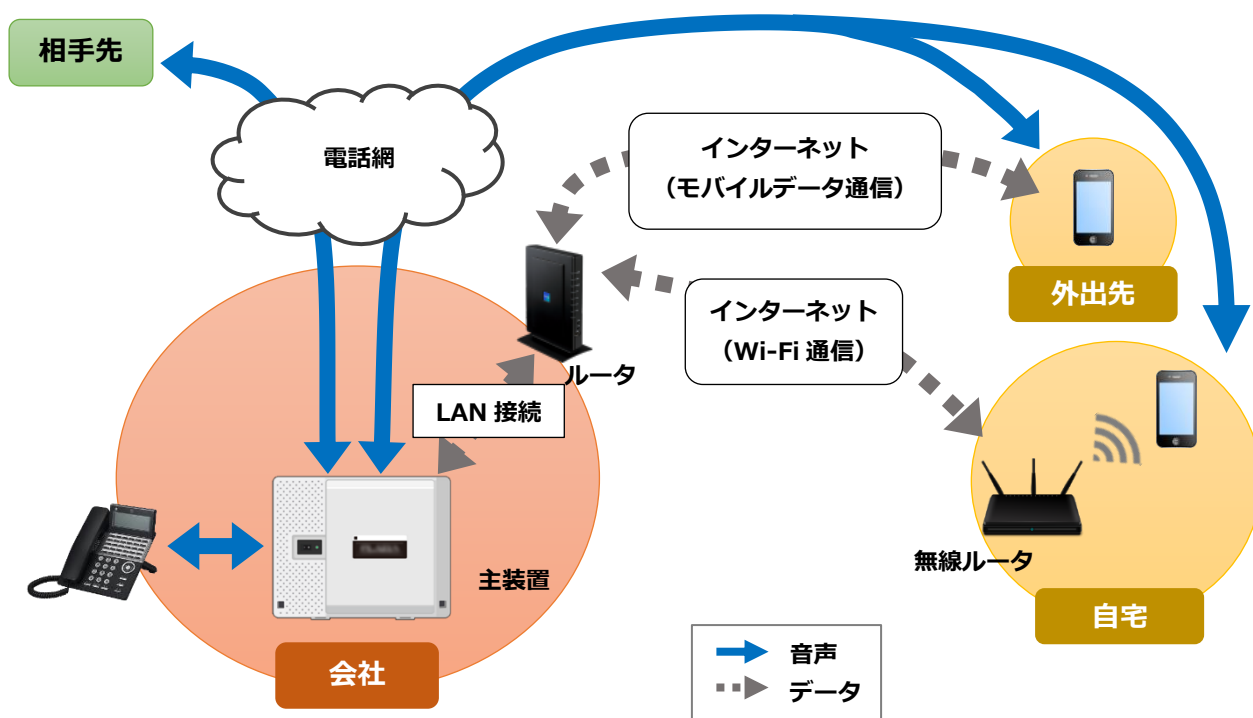
MLiner とは

「MLiner」は、電話機能とデータ通信（モバイルデータ通信／Wi-Fi 通信）を利用して、主装置と連携したマルチライン電話機能を実現するスマートフォンアプリケーションです。

- スマートフォンを持ち歩くだけで、会社の電話帳や共通着信履歴などを外出先から利用することができます。
- キャリアの電話網を利用することで、高品質な通話を実現します。
- データ通信には独自方式（暗号化等）を採用することで、セキュリティを確保しています。

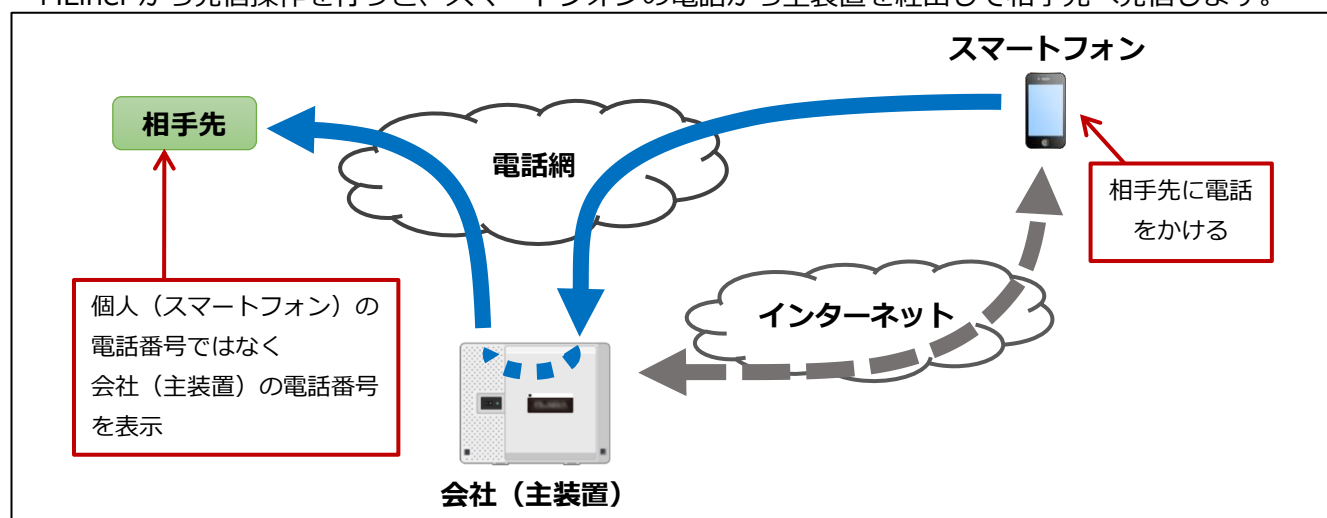
【MLiner のしくみ】

MLiner は、発信や着信をするときに主装置を経由して行います。



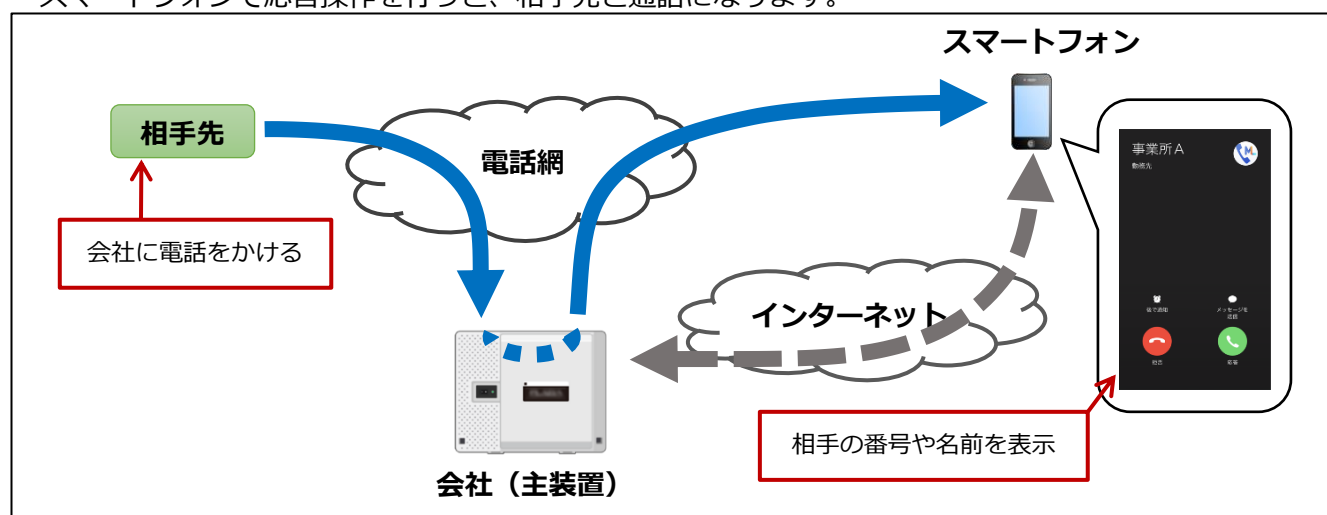
■電話をかける場合

MLiner から発信操作を行うと、スマートフォンの電話から主装置を経由して相手先へ発信します。



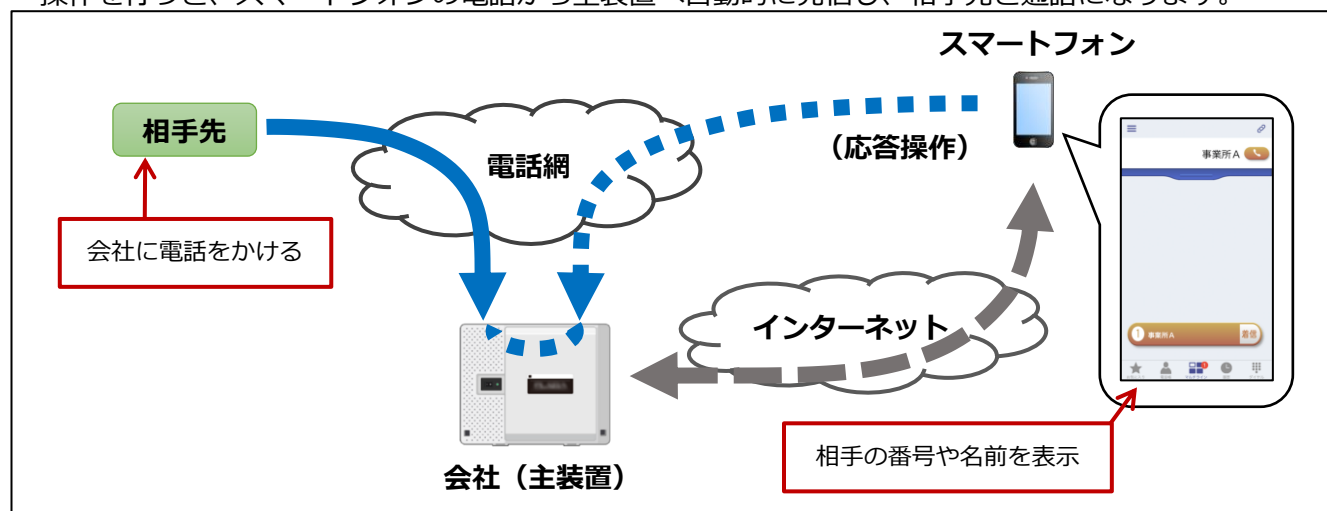
■電話を受ける場合（スマートフォンの電話へ着信）

相手先から主装置に電話を受けると、主装置からスマートフォンの電話へ発信します。その後、スマートフォンで応答操作を行うと、相手先と通話になります。



■電話を受ける場合（MLiner へ着信）

相手先から主装置に電話を受けると、主装置から MLiner に着信を通知します。その後、MLiner 上で応答操作を行うと、スマートフォンの電話から主装置へ自動的に発信し、相手先と通話になります。



MLiner をご利用の際は、以下の点にご注意ください。

- MLiner の特性上、スマートフォンの「かけ放題プラン」および「データ定額プラン」のご加入をおすすめします。
- 無線の電波状況（圏外など）やネットワーク状況によってはご利用できない場合があります。
- **au のスマートフォンをお使いになる場合は、「VoLTE（4G LTE 通信での電話サービス）」の契約が必要です。また 4G LTE 通信サービス外のエリアではご利用できません。**
- docomo のスマートフォンでモバイルデータ通信をお使いになる場合は、ヘルスチェック間隔設定を「1 分」でご利用ください。
- Wi-Fi 通信をお使いになる場合は、Wi-Fi 通信を利用してインターネットに接続できることをご確認ください。

動作環境

MLiner の動作環境は次の通りです。(2017 年 3 月現在)

■ OS

OS 種別	OS バージョン
iOS	iOS 9～10
Android	Android 5～6

■ 機種

種別	機種	回線キャリア
iPhone	iPhone 7	docomo
	iPhone 6s	SoftBank
	iPhone 6	au (VoLTE 対応エリアのみ)
	iPhone 5s	
Android 端末	Xperia X Performance	docomo
	Xperia Z5	SoftBank
	Galaxy S7 edge	au (VoLTE 対応エリアのみ)

画面構成

基本画面について

MLineerの基本画面構成について、マルチライン画面を例として説明します。

※以後は「iPhone 7」の画面で説明します。

（お使いの機種や端末の設定によっては、一部表示や動作が異なる場合があります）



①ステータスバー

接続状態アイコンおよびメニューアイコンを表示します。

- ・接続状態アイコン：主装置との接続状況を表示します。

	ログイン状態
	ログアウト状態
	未接続状態（接続中）

- ・メニューアイコン をタップすると、メニュー画面を開きます。

※メニュー画面を閉じるときは、メニュー画面を右から左へスワイプするか、またはメニュー画面以外の場所をタップします。

②メインエリア

各画面のメインとなる表示部であり、各画面で変化します。

またログアウト状態または未接続のときには、画面下部に「ご利用できません」を表示します。

③メニューバー

各画面に切り替えるアイコンを表示します。

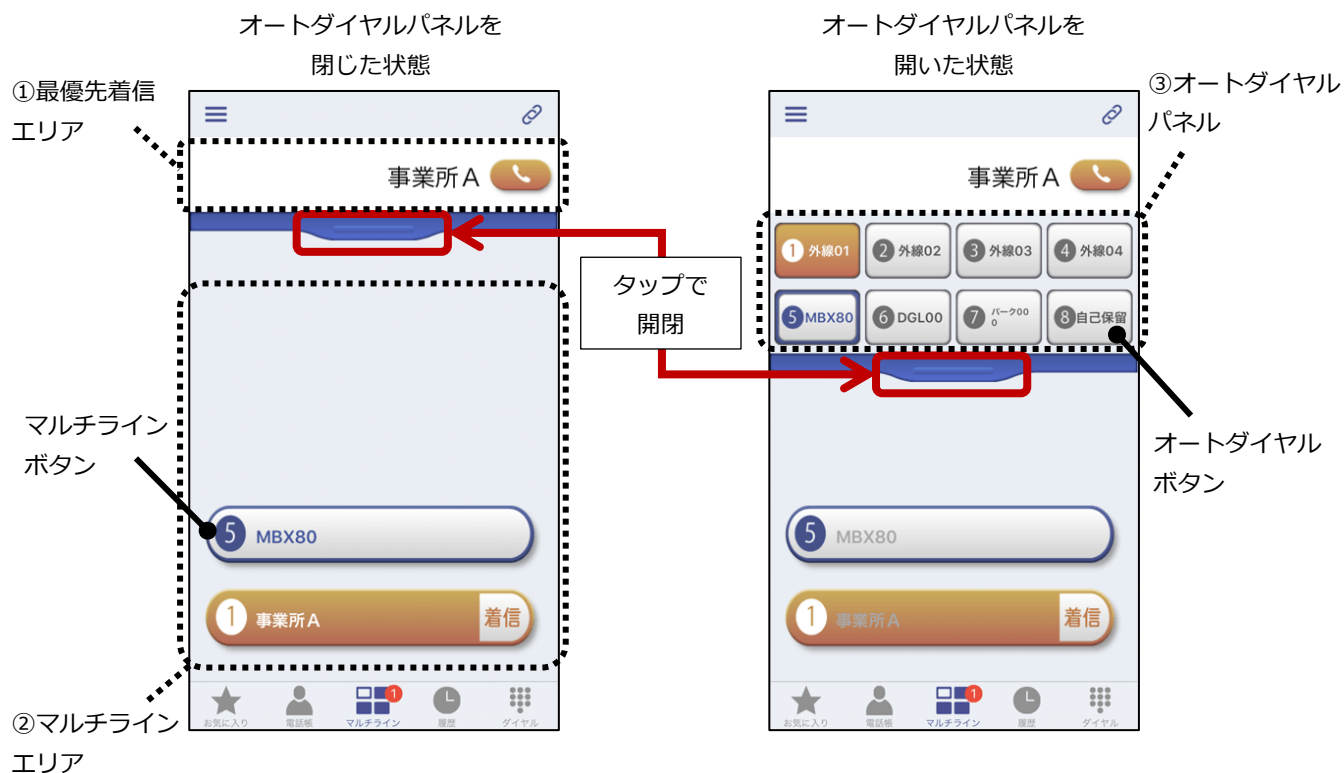
アイコンの意味は以下の通りです。

アイコン	タップ時の動作	備考
 マルチライン	マルチライン画面へ移動	・MLiner へ着信中にはバッジ①が付きます。 ・通話中には通話中画面に変わります。
 電話帳	電話帳画面へ移動	電話帳に更新情報があるとバッジ①が付きます。
 履歴	履歴画面へ移動	
 ダイヤル	ダイヤル画面へ移動	
 お気に入り	お気に入り画面へ移動	

マルチライン画面について

Mliner のマルチライン画面は、3つのボタン表示エリアで構成されています。

- ①最も優先度の高い着信情報を表示する「最優先着信エリア」
- ②マルチラインボタンを表示する「マルチラインエリア」
- ③オートダイヤルボタンを表示する「オートダイヤルパネル」



マルチラインボタンおよびオートダイヤルボタンの意味は以下の通りです。

■基本表示

マルチラインボタン	オートダイヤルボタン	説明
ボタンを表示しない	①	空き（未使用）
④	④	他の人やシステムが使用中
⑥ 保/他	⑥	他の人が保留中
② 着信	②	着信中
③	③	自分が使用中
⑤ 保/自	⑤	自分が保留中
② 保/警	②	保留警報中

■ メールボックス機能

マルチラインボタン	オートダイヤルボタン	説明
ボタンを表示しない		録音なし
		録音あり（再生済み）
		録音あり（未再生）

MEMO

- オートダイヤルボタンは、マルチライン画面のほか、ダイヤル画面・通話中画面でも利用することができます。詳細は「オートダイヤルの機能を利用する」をご覧ください。

電話をかける

ダイヤル操作で発信する



① ダイヤル画面を表示

② 相手先番号をダイヤルキーで入力

③ 発信ボタン（外線の場合）または内線発信ボタン（内線番号・特番の場合）をタップ

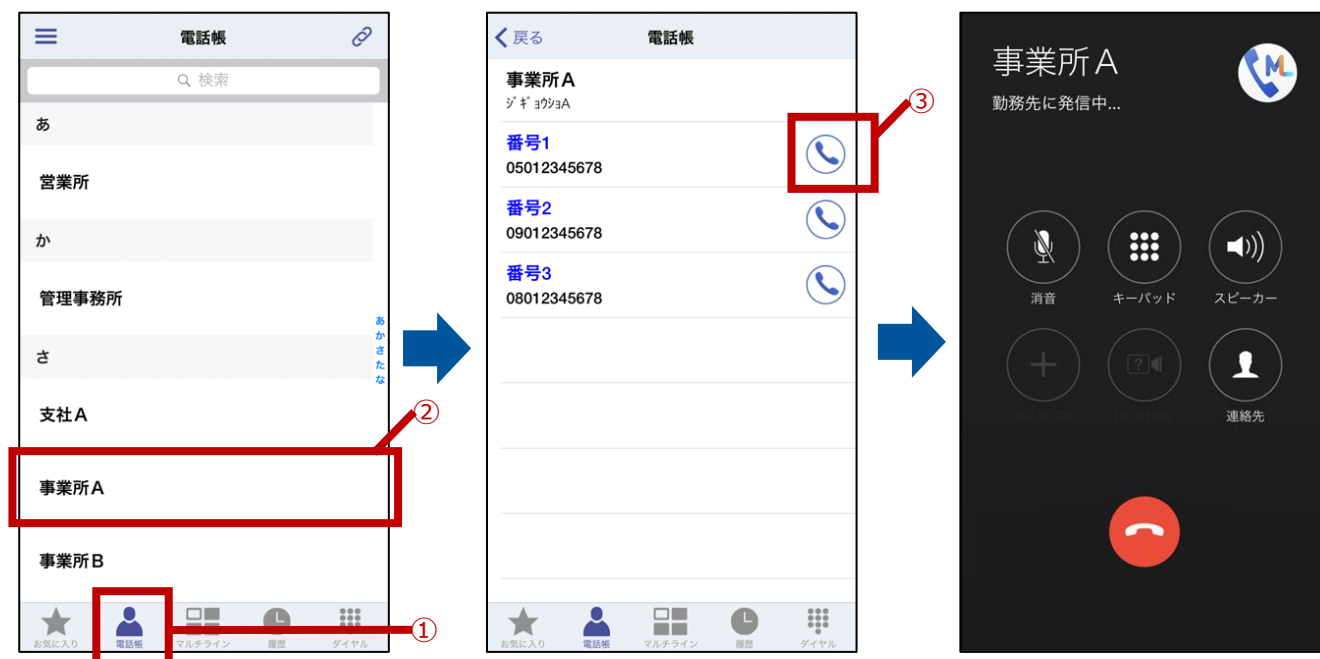
- スマートフォンの電話に切り替わり、相手先へ発信します。
- システムの電話帳に名前を登録すると、スマートフォンの電話には、相手先番号の代わりに登録した名前が表示されます。

MEMO

- ③で発信ボタンの代わりにオートダイヤルボタンをタップすると、発信に使用する回線を指定して発信することができます。⇒「オートダイヤルの機能を利用する」

電話帳から発信する

システムの電話帳を利用して、相手に発信することができます。



① 電話帳画面を表示

② 一覧から電話帳をタップ

③ 発信したい電話番号の受話器アイコンをタップ

- スマートフォンの電話に切り替わり、相手先へ発信します。
- システムの電話帳に名前を登録すると、スマートフォンの電話には、相手先番号の代わりに登録した名前が表示されます。

MEMO

- ②で画面上の検索エリアから電話帳を検索することができます。
- ③で受話器アイコンの代わりに番号の部分をクリックすると、相手先を確認してから発信することができます。
- ③で受話器アイコンを長押しすると、ダイヤル画面に移動してオートダイヤル機能を利用することができます。

電話帳の更新

電話帳が変更（追加・変更・削除）されたときは、以下の操作で更新することができます。



① 「更新情報があります」の下からスワイプ

② はいをタップ

- 更新中の表示が消えるまで待ちます。

MEMO

- 電話帳の更新は電波状態の良いところで実行してください。
- 電話帳の件数によっては、更新に時間がかかる場合があります。
- 「更新情報があります」をタップすることでも、電話帳を更新することができます。
- 電話帳の更新中は、MLiner で発信や保留/保留応答などの他の操作はできません。更新が終わるまでお待ちください。

電話帳のインポート

初めてのログイン操作時に電話帳のインポートをキャンセルした場合には、以下の操作でインポートを実行することができます。

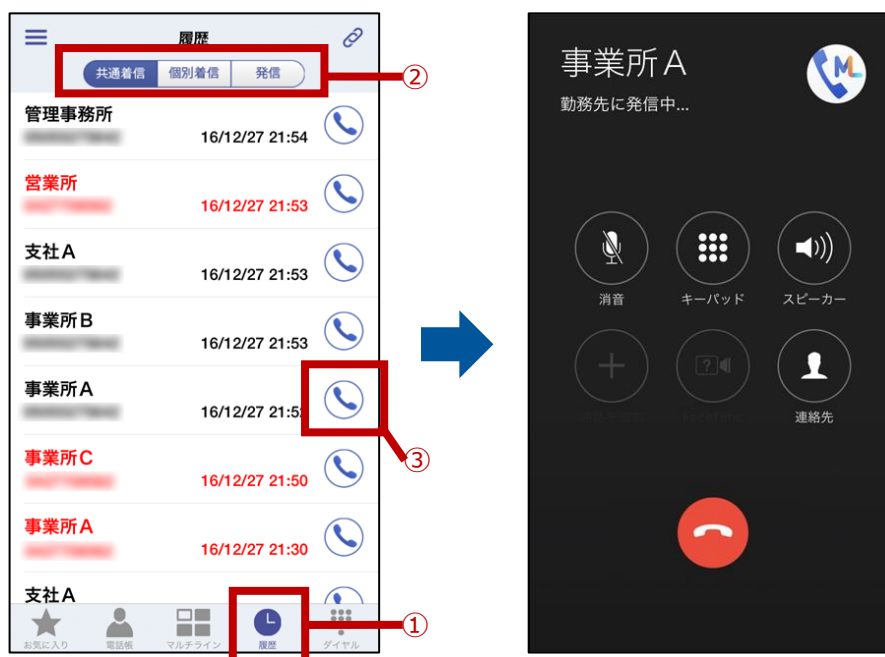
メニュー＞設定＞電話帳インポート

MEMO

- 電話帳のインポートは電波状態の良いところで実行してください。
- 電話帳の件数によっては、インポートに時間が掛かる場合があります。
- 電話帳のインポート中は、MLiner で発信や保留/保留応答などの他の操作はできません。インポートが終わるまでお待ちください。

履歴から発信する

システムの履歴を利用して、相手に発信することができます。



① 履歴画面を表示

② 表示したい履歴タブをタップ

- 履歴タブをタップすると、それぞれの履歴情報を表示します。

共通着信	外線からの一般着信などシステムにかかってきたグループ着信の履歴を表示
個別着信	内線着信や外線個別着信などの自分にかかってきた着信の履歴、および一般着信のうち自分が応答した履歴を表示
発信	電話をかけた履歴を表示

- システムの電話帳に登録されている場合は、名前も表示します。
- 未応答の着信履歴（不在着信履歴）は、赤く表示します。

③ 発信したい履歴の受話器アイコンをタップ

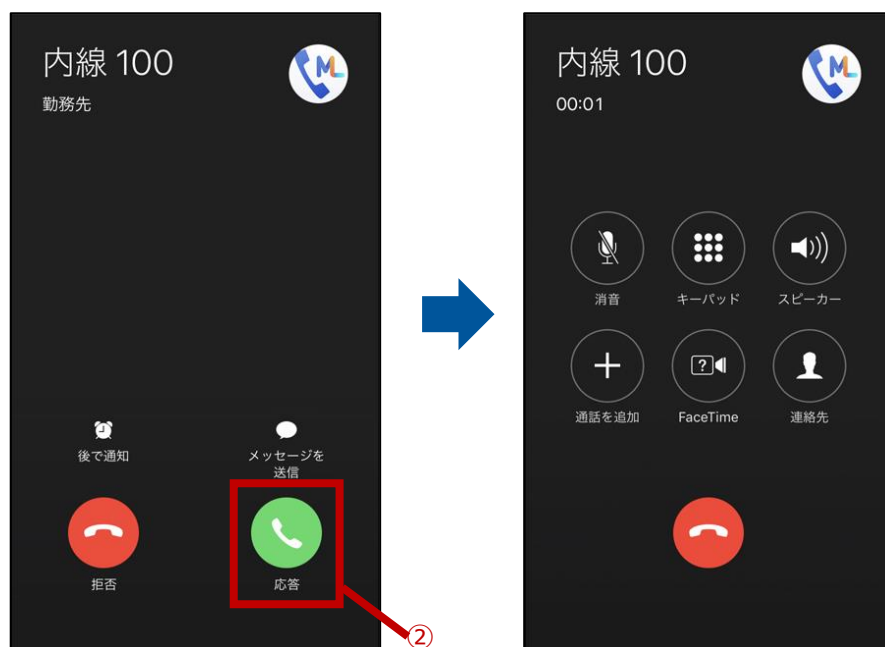
- スマートフォンの電話に切り替わり、相手先へ発信します。
- システムの電話帳に名前を登録すると、スマートフォンの電話には、相手先番号の代わりに登録した名前が表示されます。

MEMO

- ③で受話器アイコンの代わりに電話番号の部分をクリックすると、相手先を確認してから発信することができます。
- ③で受話器アイコンを長押しすると、ダイヤル画面に移動してオートダイヤル機能を利用することができます。

電話を受ける

スマートフォンの電話で応答する



① 着信する

- システムの電話帳に名前を登録すると、スマートフォンの電話には相手先番号の代わりに登録した名前が表示されます。

② 応答アイコンをタップ

- 通話中になります。

工事設定

- 一般系着信のときにスマートフォンの電話で応答するように変更したい場合には、主装置の設定変更が必要です。販売店へご相談ください。

MLiner で応答する



① スマートフォンのロック画面に着信のお知らせが表示される

- システムの電話帳に名前を登録すると、相手先番号の代わりに登録した名前が表示されます。

② 着信のお知らせをスワイプ

- MLiner に切り替わります。

③ 受話器ボタンをタップ

- スマートフォンの電話に切り替わり、着信に応答（ピックアップ）します。

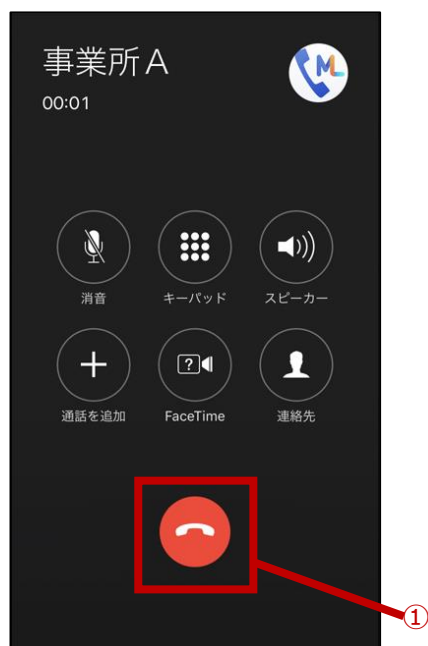
MEMO

- ①で MLiner 操作中に着信を受けたときは、メニューバーのマルチライン画面アイコンをタップしてマルチライン画面へ移動してください。
- ②でスマートフォンのロック画面でパスコードをセットしている場合はパスコード入力画面が表示されますので、ロックを解除してください。ロック解除後に MLiner の画面に切り替わります。
- ③で、受話器アイコンの代わりに着信中のマルチラインボタンをタップすることでも応答できます。
⇒「画面構成」
- ③で、受話器アイコンの代わりに着信中のオートダイヤルボタンをタップしても応答することができます。⇒「オートダイヤルの機能を利用する」
- Android 端末の場合、②でスワイプの代わりにタップします。
- 電波状況が悪い場合（Wi-Fi 通信の切り替わりや圏外など）には、受話器アイコンが表示されない場合があります。その場合は再度ログインしてください。

工事設定

- 内線着信などの個別着信を MLiner で応答するように変更したい場合には、主装置の設定変更が必要です。販売店へご相談ください。

電話を終了する



① スマートフォンの電話で終了アイコンをタップ

MEMO

- 電話が終了すると、MLiner の画面に戻ります。

通話を保留する

保留する

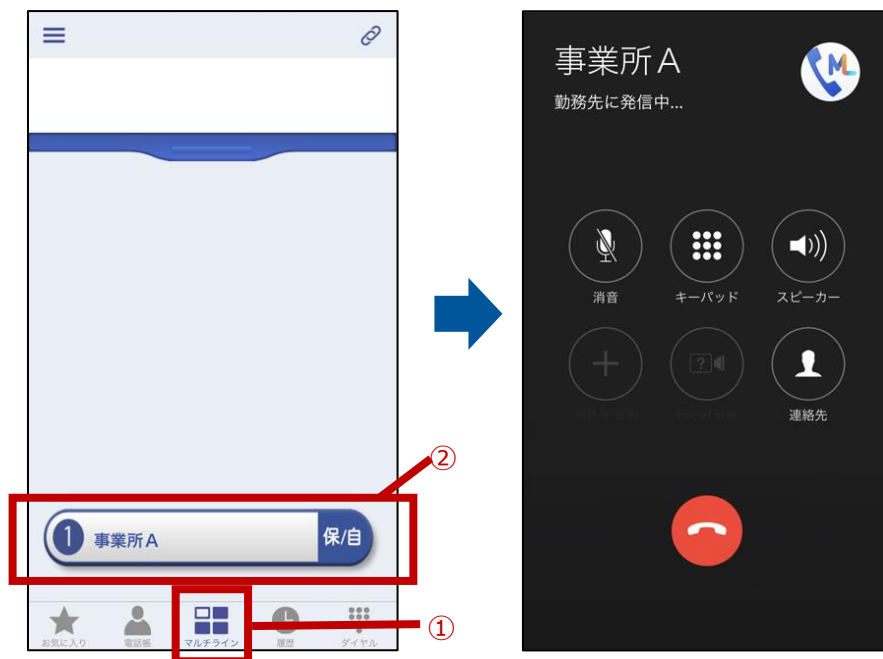


- ① 通話中にホーム画面へ切り替え
- ② ホーム画面で MLineer アイコンをタップ
- ③ 保留ボタンをタップ
 - 保留後はマルチライン画面に戻ります。

MEMO

- 自動保留設定を行うと、②で MLineer アイコンをタップしたときに自動で保留になります。
メニュー＞設定＞一般設定で「自動保留」を ON にする
- ③で、保留ボタンの代わりに、オートダイヤルボタンに割り付けたパークボタンや自己保留ボタンをタップすると、それぞれの機能で保留することができます。⇒「オートダイヤルの機能を利用する」
- スマートフォンで直接電話をしている場合は保留をすることができません。
⇒「電話をスマートフォンから直接かける」
- Android 端末の場合は、MLineer アイコンにバッジを表示しません。

保留に応答する



① 保留中にマルチライン画面を表示

② 保留中のマルチラインボタンをタップ

- スマートフォンの電話に切り替わり、保留に応答（ピックアップ）します。

MEMO

- ②でマルチラインボタンの代わりに、オートダイヤルボタンに割り付けたパークボタンや自己保留ボタンをタップすると、それぞれの機能の保留に応答することができます。
⇒「オートダイヤルの機能を利用する」

通話を転送する

ダイヤル操作で転送する



- ① 通話中にホーム画面へ切り替え
- ② ホーム画面で MLineer アイコンをタップ
- ③ ダイヤル操作による転送ボタンをタップ
 - ボタンをタップすると自動的に保留し、保留後はダイヤル画面を表示します。
- ④ 相手先番号をダイヤルキーで入力
- ⑤ 発信ボタン（外線の場合）または内線発信ボタン（内線番号・特番の場合）をタップ
 - 相手先へ発信します。
 - 相手が応答すると、通話中になります。
- ⑥ 電話を終了する
 - 電話を終了すると自動的に通話を転送します。

MEMO

- ④～⑤はダイヤル発信操作と同じです。⇒『ダイヤル操作で発信する』
- ⑥は電話の終了操作と同じです。⇒『電話を終了する』

電話帳から転送する



① 通話中にホーム画面へ切り替え

② ホーム画面で MLine アイコンをタップ

③ 電話帳操作による転送ボタンをタップ

- ボタンをタップすると自動的に保留し、保留後は電話帳画面を表示します。

④ 一覧から電話帳をタップ

⑤ 発信したい電話番号の受話器アイコンをタップ

- 相手先へ発信します。
- 相手が応答すると、通話中になります。

⑥ 電話を終了する

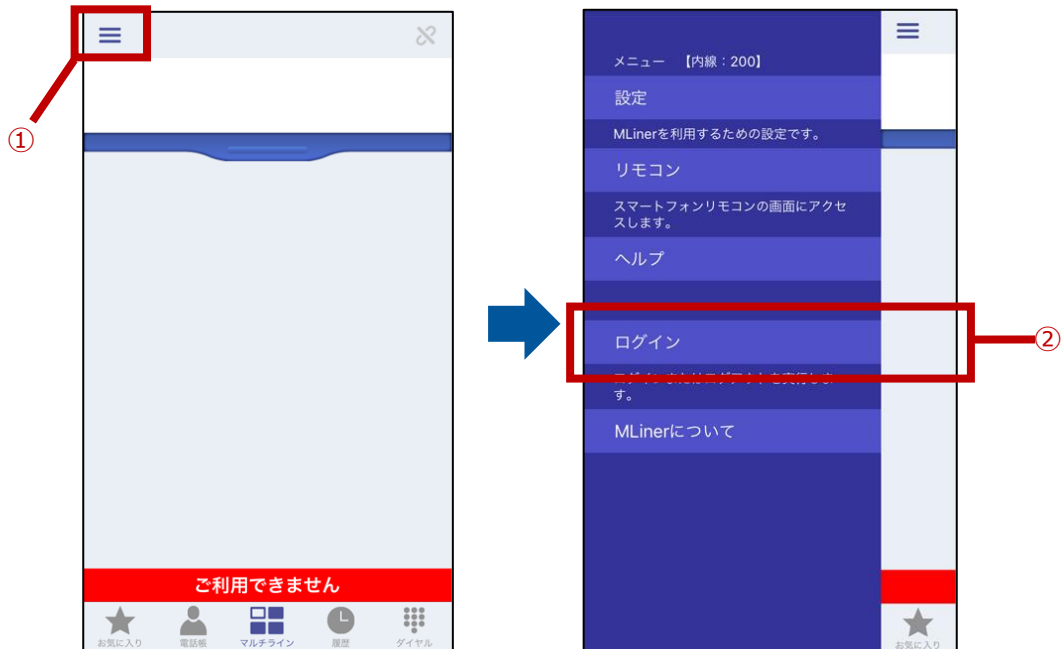
- 電話を終了すると自動的に通話を転送します。

MEMO

- ④～⑤は電話帳からの発信操作と同じです。⇒『電話帳から発信する』
- ⑥は電話の終了操作と同じです。⇒『電話を終了する』

ログイン/ログアウト

ログインする



① メニューアイコンをタップ

- 画面例はマルチライン画面の場合です。

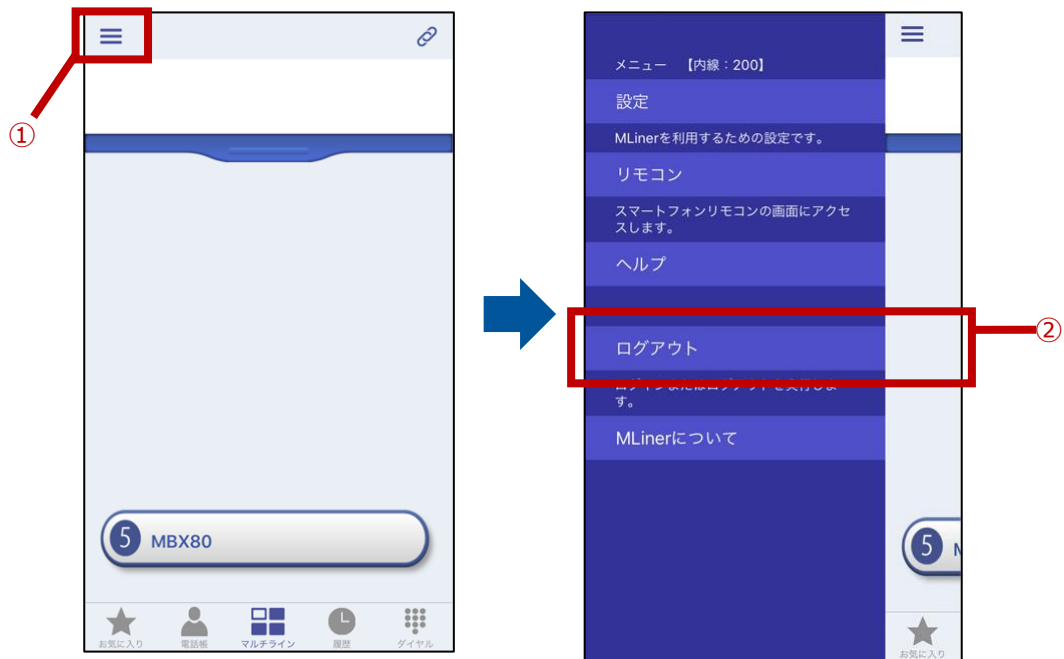
② ログインをタップ

- ログイン後は、前回表示していた画面を表示します。

MEMO

- ステータスバーの接続状態アイコンを長押しすることでもログインすることができます。
- MLiner を初めて起動したときやスマートフォンの電話番号が変更になったときには、アクティベート機能が実行されます。アクティベート機能の詳細は販売店へお問い合わせください。

ログアウトする



① メニューアイコンをタップ

- 画面例はマルチライン画面の場合です。

② ログアウトをタップ

- ログアウト後は、「ご利用できません」を表示します。

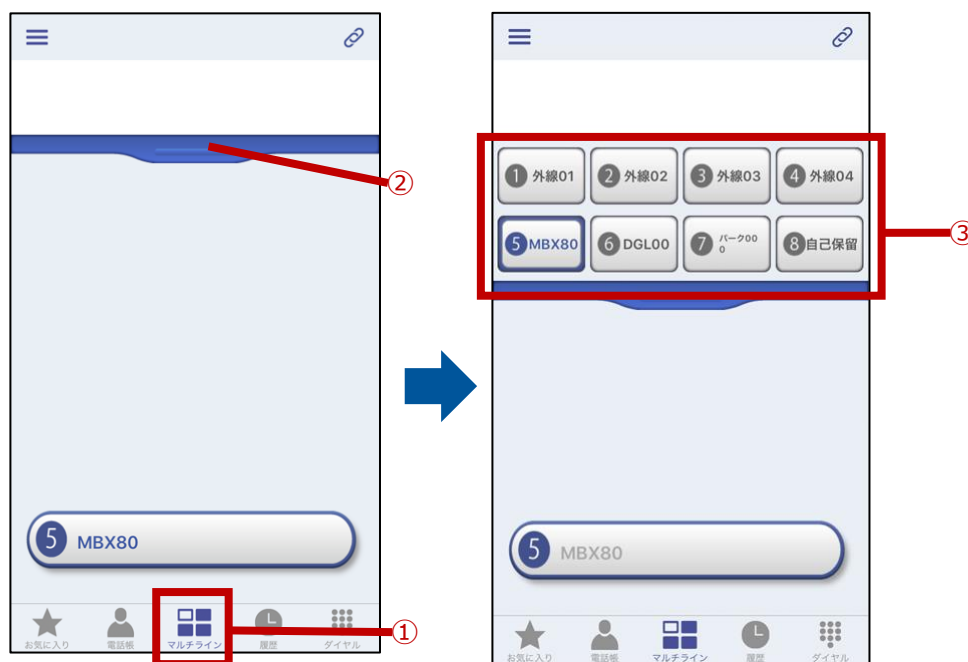
MEMO

- ステータスバーの接続状態アイコンを長押しすることでもログアウトすることができます。

便利な機能

オートダイヤルの機能を利用する

オートダイヤルは、マルチライン画面・ダイヤル画面・通話中画面で利用することができます。
例として、マルチライン画面での操作について説明します。



① マルチライン画面を表示

② つまみをタップ

- オートダイヤルパネルが開きます。

③ ボタンをタップ

- タップしたボタンの機能に従って動作します。

MEMO

- Mliner で利用できるオートダイヤルの機能は『付録』をご覧ください。
- オートダイヤルのボタンに表示する名前を変更することもできます。
メニュー> 設定> 一般設定> オートダイヤル名称設定

お気に入り機能を利用する

よく使う番号をお気に入りの番号として登録しておくことで、すぐに電話をかけることができます。

お気に入り番号を登録する



① お気に入り画面を表示

② +をタップ

③ 必要事項を入力

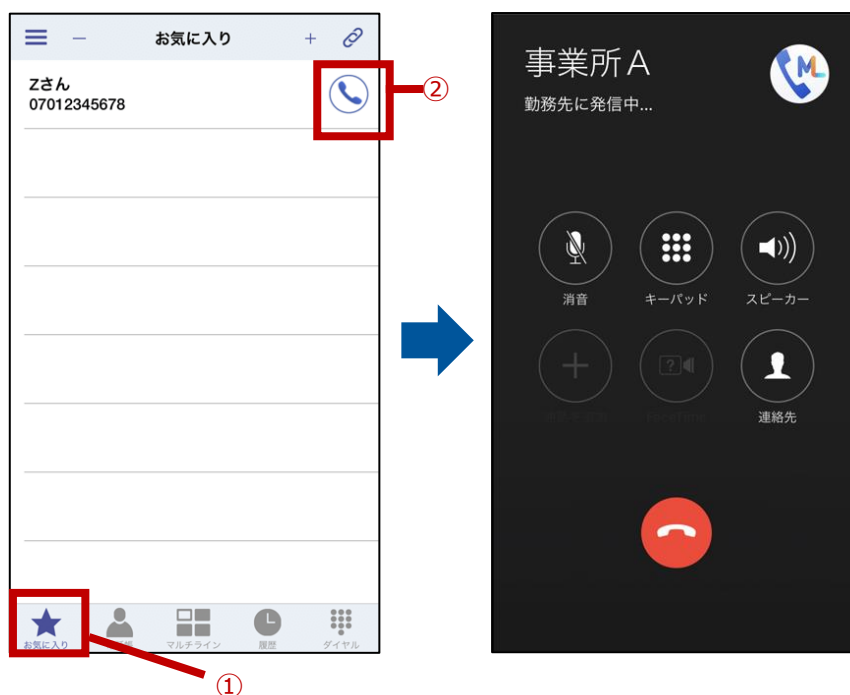
④ 保存をタップ

- 保存後は、お気に入り一覧を表示します。

MEMO

- 「内線で発信」を ON にすると、登録した番号を内線番号や特番として利用できます。
- お気に入り番号は最大 30 件まで登録できます。

お気に入り番号へ発信する



① お気に入り画面を表示

② 発信したいお気に入り番号の受話器アイコンをタップ

- スマートフォンの電話に切り替わり、相手先へ発信します。

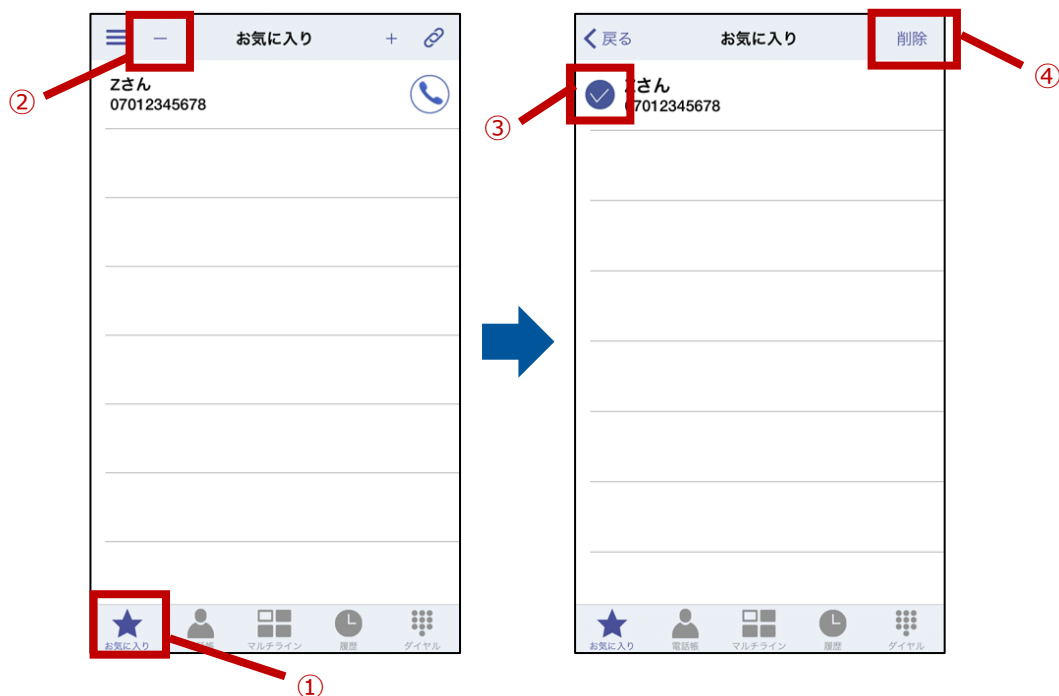
MEMO

- スマートフォンの電話に表示される名前は、お気に入りに登録した名前ではなく、システムの電話帳に登録した名前になります。
- ②で受話器アイコンを長押しすると、ダイヤル画面に移動してオートダイヤル機能を利用することができます。

お気に入り番号を編集する

- ① お気に入り画面を表示
- ② 編集したいお気に入り番号をタップ
 - 以後の操作は、『お気に入り番号を登録する』と同じです。

お気に入り番号を削除する



- ① お気に入り画面を表示
- ② -をタップ
- ③ 削除したいお気に入り番号にチェックを付ける
 - 複数のお気に入り番号にチェックすることができます。
- ④ 削除をタップ

電話をスマートフォンから直接かける

電話をスマートフォンから直接かけたい場合は、あらかじめ発信ルール設定に番号を登録して利用します。
※本機能は、ダイヤル画面・お気に入り画面から外線へ発信する場合に利用することができます。

発信ルールを設定する

① 発信ルール設定で直接電話をかけたい番号を登録する

- メニュー＞設定＞一般設定＞発信ルール設定 で登録します。
- 発信ルールは最大 10 件まで登録できます。

電話をスマートフォンから直接かける

例として、ダイヤル画面から発信する場合を説明します。



① ダイヤル画面を表示

② 相手先番号をダイヤルキーで入力

③ 発信ボタンをタップ

④ 確認ダイアログで OK をタップ

- スマートフォンの電話に切り替わり、相手先へ発信します。
- スマートフォンの電話に表示される名前は、スマートフォンの連絡先に登録した名前になります。

MEMO

- ④で OK の代わりに「サーバ経由で発信」をタップすると、MLiner からの発信になります。

おやすみ機能を利用する

あらかじめ設定した時間になると、自動でログアウト・ログインを実行します。



① おやすみ時間設定画面を表示

- メニュー＞設定＞一般設定＞おやすみ時間設定

② 時間指定を ON にする

- おやすみ開始・おやすみ終了が有効になります。

③ おやすみ開始・おやすみ終了をタップ

④ おやすみ開始 および おやすみ終了の時間を変更

⑤ 保存をタップ

- おやすみ開始時間になると自動的にログアウトを、またおやすみ終了時間になると自動的にログインを行います。

MEMO

- おやすみ開始時間になる前に操作でログアウトしたときには、おやすみ時間設定画面の「時間優先」によって、以下のように動作が変わります。
 - ・ 時間優先「ON」の場合：おやすみ終了時間になると自動でログインします。
 - ・ 時間優先「OFF」の場合：おやすみ終了時間になっても自動でログインしません。
- おやすみ開始時間とおやすみ終了時間に同じ時刻を指定した場合にはおやすみ機能は動作しません。
(例 00:00～00:00)
- おやすみ時間中に時間指定を ON に切り替えるとログアウトを行います。おやすみ時間中に時間指定を OFF に切り替えてもログインは行いません。

アプリケーションロック機能を利用する

MLiner を一定時間利用しないときには、ロック画面を表示して第三者が MLiner を操作できないようにします。ただし、アプリケーションロックはスマートフォンの電話を利用中にはかかりません。

アプリケーションロックを設定する



① アプリケーションロック設定画面を表示

- メニュー＞設定＞アプリケーションロック設定

② ロック設定をタップ

③ ロックするまでの時間をタップ

④ 保存をタップ

- 設定した時間が経過すると、ロック画面が表示されるようになります。

パスワードを設定する場合は、続けて以下の操作を行います。

⑤ アプリケーションロック設定画面でパスワード設定をタップ

⑥ パスワードを2回入力

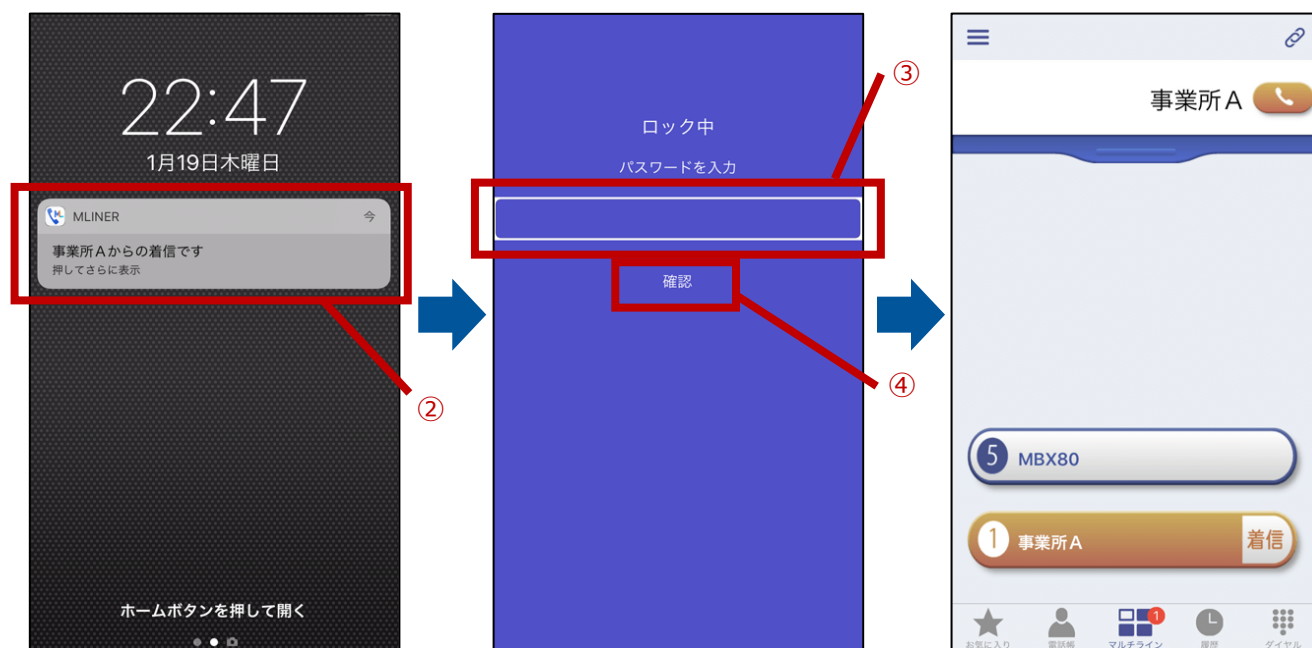
⑦ 保存をタップ

MEMO

- ③で「しない」をチェックすると、アプリケーションロックを行いません。

アプリケーションロック中に解除する

例として、MLiner の着信のお知らせを受けたときの操作を説明します。



① スマートフォンのロック画面を表示

② 着信のお知らせを右へスワイプ

③ 設定したパスワードを入力

④ 確認をタップ

- MLiner の画面に戻ります。

MEMO

- ③でパスワードが未設定の場合は、そのまま続けて④を実行します。
- スマートフォンの電話を利用中には、アプリケーションロックはかかりません。

スマートフォンリモコン機能を利用する

スマートフォンリモコン機能を利用して、留守番や外線転送などのセット・解除を行うことができます。



① メニュー画面を表示

② リモコンをタップ

- スマートフォンリモコンの画面をブラウザで開きます。

③ スマートフォンリモコンからそれぞれの機能をセット/解除することができる電話機の内線番号とパスワードでログインする

MEMO

- スマートフォンリモコン機能の詳細については『取扱説明書（スマートフォンリモコン編）』をご覧ください。ただし「ご自分の内線番号」は「スマートフォンリモコンからそれぞれの機能をセット/解除することができる内線番号」に読み替えてください。

工事設定

- スマートフォンリモコン機能を利用するには、販売店またはネットワーク管理者にご相談ください。

こんなときは

お問い合わせの前に

MLiner の使用中にお困りのことがありましたら、お問い合わせになる前に以下の内容をお確かめください。

こんなときは	お確かめください
ログインできない	・電波状態の良いところへ移動してください。 ・MLiner を再起動してください。 ・スマートフォンを再起動してから MLiner を起動してください。
未接続状態（接続アイコンが「未接続  （赤）」になり、画面下部に「ご利用できません」が表示されること）が頻繁に発生する	・電波状態の良いところへ移動してください。
発信や着信の応答ができない	・電波状態の良いところへ移動してください。 ・スマートフォン用に使うための電話回線は空いていますか。 ⇒空き電話回線がない状況が何度も発生する場合には、販売店へご相談ください。 ・（iPhone の場合）自分の電話番号設定が正しいことを確認してください。 ・（iPhone の場合）MLiner の設定で、連絡先のアクセス許可が ON になっていることを確認してください。
電話帳一覧の更新に失敗する 電話帳のインポートに失敗する	・電波状態の良いところへ移動してから実行してください。
通話が保留できない 通話が転送できない	・スマートフォンから直接電話をかけていませんか。 ⇒スマートフォンから直接電話をかけている場合は、MLiner で保留することができません。
着信お知らせによる着信や保留に応答できない	・スマートフォン用に使うための電話回線は空いていますか。 ⇒空き電話回線がない状況が何度も発生する場合には、販売店へご相談ください。
マルチライン画面やオートダイヤルパネルの使い方がわからない	・ヘルプ画面をご覧ください。 メニュー>ヘルプ
着信のお知らせが表示されない	・スマートフォンの設定で、MLiner からの通知設定が許可されていることを確認してください。
スマートフォンの電話への着信が MLiner への着信となる	・スマートフォン用に使うための電話回線は空いていますか。 ⇒空き電話回線がない状況が何度も発生する場合には、販売店へご相談ください。
運用中に着信が入らなくなった	・MLiner がログアウト状態になっていませんか。 ⇒OS のアップデートや電池切れなどでスマートフォンを再起動した場合には、MLiner を再び起動する必要があります。

MEMO

- 障害が発生した場合には、MLiner のログを収集してメールで送信することができます。詳細は販売店へお問い合わせください。

設定を初期化する

Mliner の設定を初期状態に戻すことができます。

設定の初期化を実行すると、Mliner がご利用できなくなりますので十分ご注意ください。



① 設定画面を表示

- メニュー＞設定

② 設定の初期化をタップ

③ 初期化をタップ

MEMO

- 設定を初期化すると、自動的にログアウトします。

第三者の利用を制限する（強制ログアウト）

スマートフォンを紛失した場合に、強制ログアウト機能を実行することで、第三者に MLiner を利用させないように制限することができます。

強制ログアウトは、多機能電話機のメニューから実行することができます。

- ① 確定ボタンを押して電話機のメニューを開く
- ② 「3（内線一覧）→1（一覧表示）→MLiner でログイン中の内線番号を選択→確定→5（付加情報表示）→1（強制ログアウト）→*（はい）」の順に操作
 - セット音が鳴動し、強制ログアウトを実行します。

MEMO

- 強制ログアウトを実行すると、MLiner の設定が全て消去されます。
⇒MLiner がご利用できなくなりますので十分ご注意ください。（通話も終了します）
- 強制ログアウト実行後の再利用については、販売店へお問い合わせください。

付録

オートダイヤル機能一覧

MLiner で対応しているオートダイヤル機能は以下の通りです。

※MLiner から機能の変更はできません。Web 設定などから変更してください。

○：利用可、×：利用不可

機能種別 No.	機能名	内線状態		備考
		待機中	通話中	
03	代理応答	○	×	
04	指定代理応答	○	×	
08	自己保留	○	○	保留/保留応答のみ有効。
21	発信	○	×	
30	メールアクセス	○	×	
53	メールボックス	○	×	メールボックスアクセスのみ有効。 (クイックログオンとなります)
66	外線/専用線	○	×	発信時は、ダイヤル入力後のみ有効。
68	DGL	○	×	
69	MSA	○	×	
70	方路発信	○	×	
71	応答	○	×	
72	パーク	○	○	保留/保留応答のみ有効。

特番一覧

MLiner で対応している特番は以下の通りです。

呼種別 No.	特番名	備考
01	内線番号	
02	閉番号	
03	拡張内線番号	指定外線捕捉特番および指定 MSA 捕捉特番は無効。
10	方路選局	
11	固定選局	
12	自動選局	
13	指定外線捕捉	
14	指定 MSA 捕捉	
19	パークシーケンス保留/応答	
20	パーク保留/応答	
21	代理応答	
23	グループ指定代理応答	
28	最終保留応答	
45	DGL グループ呼出	
46	メールアクセス	

お問い合わせ窓口のご案内

このたびは、当社の製品をお求めいただき、誠にありがとうございます。

製品についてのお問い合わせ、ご相談、アフターサービス(修理)などにつきましては、お求めになられました販売店または下記の当社窓口にご相談ください。

なお、お客様との電話対応時においては、お問い合わせ・ご相談内容などの正確な把握、今後のサービス向上のために、通話を録音させていただく場合があります。

《サクサグループ》

■お客様窓口（商品についてのお問い合わせ、ご相談）

ナビダイヤル ゼロゼロワン サクサ

サクサ株式会社

●お客様相談室：



0570-001-393

050-5507-8039

上記窓口・電話番号は都合により、変更になる場合がございます。その際は、お買い求め頂いた販売店にご相談いただくか、または、当社ホームページ(<http://www.saxa.co.jp>)より最新情報を入手してください。

PHS・IP 電話等、ナビダイヤル(0570 で始まる番号)がご利用できない場合は、050-5507-8039 にお問い合わせください。



当社では、今後も環境に配慮した製品の開発を推進し、サクサブランドのエコ製品をグループ一体となって生み出すことにより、地球環境保全に貢献していきたいと考えています。

サクサエコマークは、下記の条件を満たした製品に適用します。

サクサエコ商品認定基準

<環境に配慮した材料の採用>

- ・ 当社の定めた含有禁止物質を製品には使用しません。
- ・ 当社の定めた含有抑制物質については、その使用量を把握管理し抑制に努めます。
- ・ 酸性雨で地中に溶け出し人体に影響がある鉛については、使用量を把握管理し抑制に努めます。
- ・ 焼却時にダイオキシンが発生する恐れのあるポリ塩化ビニル(PVC)と特定臭素難燃剤(PBDE 及び PBB)の使用を抑制します。
- ・ 廃棄時の環境影響に配慮した当社の基準で推奨するプラスチック材料や金属材料を使用します。

<リサイクルしやすい設計>

- ・ リサイクルを容易にするために、プラスチック部品には材料名を表示します。
- ・ リサイクルを考慮しプラスチック材料はできる限り統一します。
- ・ プラスチック材料への二次加工を抑制した設計を行います。

<環境に配慮した梱包材>

- ・ 緩衝材に発泡スチロールはできる限り使用しないようにします。

<省エネルギー>

- ・ 省エネルギーを考慮した設計を行います。

<事前評価>

- ・ 設計・製造にあたっては、当社の定めた製品アセスメントを実施し、製品が環境に与える影響を評価しています。

サクサ株式会社

この資料の内容は、平成29年3月現在のものです。

1334BT	173-1	Z
--------	-------	---

4438077600